

2 研究論文が備えるべき条件 — 「研究」と「報告」の違い—

実践を通して変容した、具体的な児童生徒の姿を、筋道立てて明確に述べる。

「これは研究ではなく報告ではないか」という批判が、教職員の研究に対して向けられることがあります。では、「研究」と「報告」はどう違うのでしょうか。その違いをまとめてみると、次のようになります。（島根県立浜田教育センター「改めて研究と向き合う教員のためのウオーミングアップ・ブック」その4）

報告（実践報告）・・・ 子ども等への働きかけとその結果をまとめたもの
研究（実践研究）・・・ 子ども等への働きかけとその結果から、相関関係、因果関係を読み解き、新たな事実や事象（問題点の提起や方法の提案など）が提示されたもの

実践した内容をまとめるだけではなく、具体的に何が変わったかを検証し、事実や課題を明確に述べるのが研究論文には求められるのです。

研究論文が備えるべき条件として、次のような項目が挙げられます。

<input type="radio"/> 表現の適切性（正確で簡潔な表現）	<input type="radio"/> 課題性（教育的価値）
<input type="radio"/> 科学性（論述の根拠が明確）	<input type="radio"/> 独創性（独自の意見や主張）
<input type="radio"/> 実用性（当面の課題解決に有効）	<input type="radio"/> 完結性・発展性（今後の見通し）
<input type="radio"/> 再現性（ほかの人が試みることができる）	

また、研究論文の一般的な項目としては、次のタイプⅠ～Ⅲの形式があります。

タイプⅠ	タイプⅡ	タイプⅢ
1 研究の目的 (1) 主題設定の理由 (2) 研究の目標 (3) 研究の仮説	1 主題設定 (1) 設定の理由 (2) 研究の目標	1 主題設定の理由
	2 研究の仮説	2 研究の目標
2 研究の内容 (1) 研究計画 (2) 研究の実際(結果) (3) 考察	3 研究の内容 (1) 研究計画 (2) 研究の実際(結果) (3) 考察	3 研究の仮説
		4 研究の計画 内容や方法
3 研究のまとめ (1) 成果 (2) 課題	4 研究のまとめ (1) 成果 (2) 課題	5 研究の実際
		6 考察
4 参考文献	5 参考文献	7 研究のまとめ
		8 参考文献

〈参考文献〉 福岡県教育研究所連盟編『新訂校内研究のすすめ方』 第一法規 1991

島根県立浜田教育センター『改めて研究と向き合う教員のためのウオーミングアップ・ブック』 2008